

第100回 CPD セミナー・公開講座・防災セミナー(徳島)

四国本部 事業委員

大村 史朗

OOMURA Shirou

四国建設コンサルタント(株)



1. セミナーの概要

2025年1月18日(土)、徳島市阿波観光ホテルにおいて、第100回CPDセミナー・公開講座・防災セミナーを開催しました。あわせて懇親会も開催しました。

セミナー参加人数は44名(うち Web 参加11名)、また懇親会参加人数は26名でした。

表1 プログラム

1. 開会 (13:30~13:40)

開会挨拶

(公社) 日本技術士会四国本部

本部長 天羽 誠二

2. CPDセミナー (13:40~14:40)

演 題:『四国における鉄道建設と土木技術』

講 師: 阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 建設コース 講師 角野 拓真氏

3. 公開講座 (14:50~15:50)

演 題:『心動く瞬間とご縁を大切に』

鳴門市地域おこし協力隊、

(一社)TSURIBITO、(株)UZU ARTS 代表
高橋 真冬氏

4. 防災セミナー (16:00~17:00)

演 題:『四国防災八十八話マップからみる
徳島の災害伝承～東日本大震災と
能登半島地震を踏まえて～』

講 師: 徳島大学 環境防災研究センター
助教 松重 摩耶氏

5. 懇親会 (17:10~19:10)

- | | | |
|----------|-----------|-------|
| (1) 開会挨拶 | 四国本部総務委員長 | 豊崎 裕司 |
| (2) 乾 杯 | 四国本部会計幹事 | 富士 達雄 |
| (3) 中締め | 四国本部会計幹事 | 菊池 昭宏 |

2. 開会挨拶 天羽本部長

四国本部天羽本部長の開会挨拶で始まりました。セミナーが記念すべき第100回を迎えたことにお礼の言葉を述べられ、挨拶とされました。



写真1 天羽本部長の開会挨拶

3. CPD セミナー 角野 拓真氏

公開講座では、阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 建設コース 講師の角野 拓真氏より、『四国における鉄道建設と土木技術』と題し、ご講演いただきました。

ご講演では、まず日本における鉄道建設の黎明期について解説されました。1869年に日本で初めての鉄道建設計画を決定、1870年民部・大蔵省に鉄道掛を設置、翌1871年工部省に鉄道寮を設置のうえ、1872年10月14日に新橋・横浜間鉄道開通(L=29km)とお聞きし、国外の技術も導入したとはいえ、明治維新直後の、その事業スピードに驚きました。その後四国でも1888年から伊予鉄道、讃岐鉄道、徳島鉄道、高知線と各県で鉄道が建設されていったとのことで、日本中で広域交通ネットワークが大きく変化していく様子を明らかにされました。日本の鉄道は私鉄から始まったとのこと、当時の産業界における期待の大きさがうかがわれます。また、それ

と合わせて土木技術、特にコンクリート構造物の設計技術の変遷について年表とともに解説され、土木技術が巨大地震の発生毎に更新されたことをお示しになった後、鉄道においても、維持管理が喫緊の課題となっているとお話になりました。

最後に、戦後の鉄道として新幹線の開業の歴史をお示しになったうえで、1889年の讃岐鉄道丸亀・琴平線の開通祝賀会にて既に本四に架かる鉄道構想が披露されていたこと、現在の瀬戸大橋には新幹線のためのスペースがあり鷺羽山には新幹線用のトンネルもあること、さらに、四国新幹線が整備されることで広域拠点間の移動時間が飛躍的に短縮することへの期待を示し、まとめとされました。



写真2 角野氏のご講演

4. 公開講座 高橋 真冬氏

CPDセミナーでは、鳴門市地域おこし協力隊、(一社)TSURIBITO、(株)UZU ARTS 代表の高橋 真冬氏より、『心動く瞬間とご縁を大切に』と題し、ご講演いただきました。

ご講演では、まず初めに、4年前に鳴門市地域おこし協力隊に就任した際の鳴門市からのミッション、「ミュージカル・演劇を通したまちおこし」について示したうえで、その直後にコロナ禍を迎えたことから、今後は時代や地域の流れに寄り添った、より戦略的で前向きな活動が必要となると考え、徳島の貴重な地域資源の一つである海をより活用する「ミュージカルと釣りでもちおこし」に見直されたことをお話になりました。そのミッションのもと実施した、ミュージカルスクールの立ち上げと運営、上演、地域資源を活かしたイベ

ントの企画・運営等、様々な地方創生の取組を紹介いただきました。

次に、その原動力が生まれるまでの経緯として、東京でのプロ役者人生から気がつけば徳島にIターンしたが、一時モヤモヤする時があったこと、その後「覚悟を持って、自分が本当にやっていきたいと思えること、“生きがい”を見つけるんだ」と自分に強く誓い、徳島全体が良くなるための起爆剤になりたいとの思いのもと、新たな夢を「演劇教育を学校のカリキュラムに！」、「釣りで徳島の観光を担う団体を作りたい！」、「徳島の作品を創り、世界へ発信！」と見定め、「二兎を得るものは二兎とも得る、がむしゃらにやれるのは今だけ、北からには成し遂げたい！」との気持ちで挑戦を続けたことをお話になり、それがたくさんの方々の賛同、評価を得て、更なる活動につながっていると述べられました。

二兎どころか、三兎、四兎、それ以上を追いかけながら邁進するその力が、地方創生に求められているのだと深く感じながら拝聴させていただきました。



写真3 高橋氏のご講演

5. 防災セミナー 松重 摩耶氏

防災セミナーでは、徳島大学環境防災研究センター 助教 松重 摩耶氏より、『四国防災八十八話マップからみる徳島の災害伝承～東日本大震災と能登半島地震を踏まえて～』と題し、ご講演いただきました。

ご講演では、環境創生に携わっていたご自身が、災害との関わりを経て課題を見だし、土木と他分野をつなげる立ち位置で、環境、防災、教育の

観点から研究を進めるに至った経緯をお話いただきました。見いだした課題とは、例えば能登半島地震現地調査において、土砂災害や洪水浸水の防災マップで色の塗られていない箇所が液状化で甚大な被害を受けていたことだったそうです。「ハザードマップは危険な箇所を知る材料だが、安全な場所を記すものではない」という気づきから、過去の災害における教訓を活かすことが重要と考え、対策の一つとして、過去の災害伝承について、具体的な活動、教育と合わせて普及・啓発していく取組を進められたとのこと。具体的な手法としては、四国各地に残る災害に関する言い伝えや体験談を約1000件近く収集し、「今日的な教訓が含まれること」、「読者を惹きつけること」等を考慮し選定された「四国防災八十八話」（発行：平成20年、国土交通省四国地方整備局）を活用した、小学生との自然災害伝承碑の見学や、ゲームの中で伝承する「四国防災八十八話災害伝承カルタ」などの取組をご紹介いただきました。八十八箇所を一つ一つめぐったところ、過去の災害案内や情報はないところが大半で、場所の特定に苦労したとともに、四国でも災害の教訓が活かされず、途絶えるかもしれないと、危機感を感じたとのこと。

最後に、時代をつなぐ、地域をつなぐ、異世代をつなぐ、異分野をつなぐをキーワードに、四国の防災資産を皆で活かしていきたいとお話になり、まとめとされました。



写真4 松重氏のご講演

6. 懇親会

セミナーの後、懇親会が開催されました。

四国本部の豊崎総務委員長の開会挨拶、富士副

本部長の乾杯の音頭により祝賀会が始まりました。2時間余りの歓談の後、四国本部 菊池会計幹事の中締めにより、懇親会も無事終了することができました。



写真5 富士副本部長の乾杯

7. おわりに

セミナー参加者は、計44名のうち会員が36名、非会員が4名でした。今回もWeb配信を行っており、遠くは関東支部、中部支部、近畿支部、中国支部等から、計11名の方々にご参加いただけたことはうれしい限りです。

今後は、(一社)建設コンサルタンツ協会、(一社)徳島県測量設計業協会等への後援依頼や技術士会独自の広報活動を展開するとともに、セミナー内容の充実を図ることにより、出席者の確保に努めて参ります。